

令和元年度事業報告

岩手公務員・医療・ビジネス専門学校

1. 教育活動の基本方針

●各部局の連携と組織の強化

- ・本校の特性を把握し発揮する中で、他部局との密接な連携を図り、学園組織を強化する。
⇒公務員・医療事務等の医療従事者・民間企業への就職に対応できるカリキュラムを遂行し、多方面において社会貢献できる人材育成を目指した事業を行った。
⇒姉妹校生徒の公務員希望者へ試験対策講座を実施し、公務員として2名の卒業生を輩出した。

●経営安定化への取組み

- ・「学校法人 コアトレース」ならびに「岩手公務員・医療・ビジネス専門学校」の認知度を深め、コアトレースの意味、設立の目的・設立の理念・運営指針等の内容や意義を内外に周知させる
⇒公務員系コースについては、『公務員試験最終合格保証制度』の認知が拡がり、入学生の増加が見られている。しかし、医療系コースの認知度が上がらず、募集活動にも苦慮している。「本学園の意味、設立の目的・設立の理念・運営指針」等に加え、本校の魅力発信に更に尽力し、入学生数増加に繋がる情報発信の実現に努めたい。

【岩手公務員・医療・ビジネス専門学校の入学者増に向けた取組みの実施】

◇適時適切な情報発信と周知を徹底する。

◇本校への進学の価値を認知させるための効果的広報を行う。

- ⇒公務員系コースにおいては、『公務員試験最終合格保証制度』の認知の拡がりを感じられる。
次年度は合格率100%の実績を目指し、更に周知を強化し、目標定員の実現に努める。

●設備の維持・管理

- ・施設・設備を良好に維持するため、管理体制を充実させる。
⇒学校施設の使用方法を指導し、施設・設備の維持に励んだ。生徒の不注意による壁の破損があったが、指導や管理体制の強化に結び付けた。

●職業実践専門課程及び専門実践教育訓練導入の検討

- ・関連業界との連携を強化し、職業実践専門課程及び専門実践教育訓練の導入に向けて検討を継続する
⇒学校関係者評価委員会を導入し、実施した。

2. 教育活動重点計画

●授業及び学習活動

- ・教員間での情報交換を密にし、学生の学習到達度を常に確認していく
⇒次年度は、各コースの生徒を複数人の教員で均等に指導できる体制を強化するため、担任制を廃止しTutor制を導入する。

●学生指導

- ・日常の学園生活において、社会人基礎力を養う教育を心がける。
⇒現有教員による実現可能な範囲での最高な教育提供をテーマとし協議した結果、次年度は年度初めの一律指導によるルールの徹底に努め、日常の指導は、生徒の自主性に委ねる体制に変更することを決定した。

●医療現場で実務経験のある教員が事前指導を実施し、また実習担当者との情報交換を密に行ない、更なるネットワークを構築する

- ・学生のニーズに合わせ、実習施設の見直しを図る。

⇒実習巡回指導において、指導者との連携を深めながら、情報を共有し生徒の成長を支援した。
実習担当者から知り得た医療現場の現状等有益な情報については教員間で共有し、生徒にフィードバックした。今後も医療現場の業務の概要を学び、心構えとともに意識の向上を図る。

3. 広報活動重点計画

●戦略的な広報により安定的な入学者確保を図る。

⇒Tutor2019（夜間講座）は、参加人数を伸ばせなかったものの、現役合格者も輩出したことから、本校の指導力PRの場としては有意な企画であるといえる。しかし、Tutor生からの入学が無く、現役合格や進路変更があったことを加味しても、広報的意義を結果に反映できるよう取り組んでいきたい。

⇒主に公務員試験対策指導に当たる高校教員を対象とした「現役合格研究会」を実施し、11名の参加を得た。高校教員との関係性を深め、本校教員の指導力を示す場としているが、イベント後の明確な手応えは得られていない。

●ホームページの充実、SNSの活用、ショーウィンドウの有効活用

⇒ホームページは情報管理室が主に担当した。適時とは言えないタイミングでの更新もあり、業務管理を徹底していくこととしている。

⇒新たにSNSの担当者を設け、行事等を通じた学校生活の紹介や各種イベントの案内等、細やかな更新を心掛けた。

⇒ショーウィンドウ前で立ち止まる通行人も度々見られ魅力ある広告媒体として運用できた。

●AO入試制度の正式な導入

・AO入試制度を導入し、次年度の公務員採用試験・資格試験に向けた早期指導に取り組む。

⇒今年度は1名のAO入試合格者を出した。

⇒AO入試での入学生に関わらず、入学が決定し次第『入学前講座』での指導を開始し、目標に向けての早期指導及び入学生の実力確認に役立てた。